ZENKYO広島

2023年 11月24日　第 585号

〒732-0052 広島市東区光町2-9-24 広島ロードビル403
TEL(082)264-7850　FAX(082)261-1912
全広島教職員組合(全教広島)情報宣伝部
(毎月10or25日発行)　購読料20円(組合員は組合費に含む)

教育のつどいヒロシマ２０２３

子どもたちとともにヒロシマの教室から紡ぎだす平和と民主主義

問題別・教科別、記念講演でのべ155名の参加！

11月18日（土）広島市・尾長小学校で「教育のつどいヒロシマ２０２３」が開催されました。午前中の問題別集会に40名。午後の教科別集会に65名、夕方からの記念講演にオンライン参加含めて50名と、延べ１５５名の参加がありました。登録され、報告されたレポートは65本。学校や子どもたちの姿や困難な中での実践の工夫など大いに学び、交流しました。

会場のお世話などしていただいた尾長小分会のみなさんに感謝します。

夕方からロードビルに会場を移動して行った記念講演は平井美津子さんを講師に招き学校の中で、「平和と民主主義の教育をどうすすめていくのか」「いま教育・学校に求められているもの」のヒントを提起していただきました。

【主な感想から】

○自分が生業としてきた教育は、政治の 影響を非常に受けるものであり、政治に無感心では、教師としての信念を全うした仕事はできないと強く感じました。

○教師は授業で勝負。授業を通して「ひと」を育てること。その為に、教師自身も「ひと」として学ぶこと。子どもたちから育てられること。これに尽きると感じました。

○「今起きていることから歴史を考えて」「子どもたちをひとに出会わせたい」「子どもたちに語る」ほかにも、一言一言が心に突き刺さる思いでした。

○平和な社会をつくる主権者をつくることをやりがいに感じるような教師になりたいなと思います。「社会科はここにある」を自分の教室で使いたいです。

○平和教育を考えたとき、「自分にできるのか」「むずかしい」と思いがちですが、ひとに焦点をあてることが大切であると思いました。これからの教育の中で生かしていきたいと思います。

○戦争とは何か、慰安婦を教えるとは何を教えることになるのか、歴史を教えることは平和を希求するために学ぶことと同じであることだと思いました。子どもたちと戦争のこと、社会のことを共に学びあうことこそ、私たちがやるべきことと思いました。

（次ページに感想掲載）

あらくさ

11月27日から「核兵器禁止条約」第２回締約国会議がニューヨークの国連本部で開催される。私たちは、この会議に日本政府がオブザーバーとして参加し、「唯一の戦争被爆国」政府として、一日も早い核兵器廃絶のために積極的な役割を果たすことを「核兵器国と非核兵器国との“橋渡し”役を果たす」とたびたび発言している。であるならば、締約国会議に参加して、そこでの議論を核兵器国に伝え、核兵器廃絶に取り組むよう求めるべきである。ロシアのプーチン大統領は「ロシアは核兵器大国」と脅しながらウクライナを侵略し、ガザ地区で「ジェノサイドの重大な危険」と国連から警告されているイスラエルの閣僚は「核兵器使用も選択肢の一つ」と発言している。

核兵器を脅迫の手段として弄ぶことは絶対に許されない。こうした発言は「核抑止論」そのものが破綻していることを示している。核兵器はただちに廃絶するしかない。

(K)

集まれば元気、語り合えば勇気、学べば力

【分科会の感想から】

○目の前の課題について日々悩み、努力している実戦、交流でしたが、その後ろにある大きな課題こそが本当の問題なんだと思いました。

○ICT教育、不登校をめぐる広島市の実態を聞くことができありがたかったです。

○高校入試の問題点について全教の要望や、具体的なことが聞けて良かったです。当事者として考えていきたいと思いました。

○今の学校の英語の先生がいかに大変かよくわかりました。みんなでこのような語り合う場を持つことが大切だと感じます。

○「字をきれいにかけない中学生がいっぱいいる」という報告に驚いた。タブレットによる学習の弊害と聞き納得する。すると同時に強く危機感をもちました。

○国語教育の危機！を感じる分科会でした。退職して現場のことがわからない今、こんなにもICTが進んでいるとは思いませんでした。生活ノートがなくなる（タブレットで済む）、子どもたちが自分のことばで書くことは、どうなっていくのでしょう。

○現場で実践したものを発表されている。実践は宝物ですね。後できちんと検証できる。やってみて子どもの反応からよかったか、悪かったかが見える。現場から離れているので新鮮に聞いた。

○現場で奮闘されている実践の工夫や苦心をこの分科会は大切にしつつ、歴史認識をめぐる市民のとりくみ、行政の介入（改ざん）への市民のとりくみなど、社会活動も含めて討議されました。

○レポート数は少ないものの、それぞれの中身が濃く、交流が多くできたことが多かった。内容別に順序が考えられ、ひとつずつのレポートがよく理解できた。

○小学校や高校であっても実践が語られることで勉強になりました。特に今谷先生の実践は、子どもの身近なテーマ（他教科との関連）があった。多角的に題材研究していく必要があると感じました。

○『自分で考える』『自分で考えさせる授業づくり』大切ですね。それが可能になる時間保障が欲しいものです。技術・家庭科をもっと大切にしてほしい。

～尾道・福山 教育のつどい２０２３を開催～

全教尾道支部と福山支部は３日（金）、福山市内において教育のつどい２０２３を開催しました。今年のつどいは、特別支援学級の実践交流をテーマにして、三島さん（駅家小分会）と白石さん（鷹取中分会）が実践報告しました。

三島さんは、長年にわたって仮説実験授業を研究し実践してきました。

大切にしていることとして、①授業では学ぶに値する内容を扱う ②子どもたちと先生が“楽しい！”と実感できる気持ちを最優先した授業―を強調されました。実際に仮説実験授業を行ってもらいながら参加者もその楽しさを味わいました。

白石さんは新採用４年目です。特別支援学級の担任として子どもたちと丁寧にかかわりつづけ、それらを記録に残し分析しつづけています。方針は“一人一人が少しずつ、確かに成長すること”です。だから子どもたちへの対応も「基準を明確に示す」「みんなの前で褒める」だったり「とにかく待つ」だったり実に多様です。何かを決める際にも子どもたちの意見に基づいて合意を大切にしながら決めていきます。

【主な感想から】

○管理主義が広まる中で、子どもの意見表明権を大切にした実践だ。

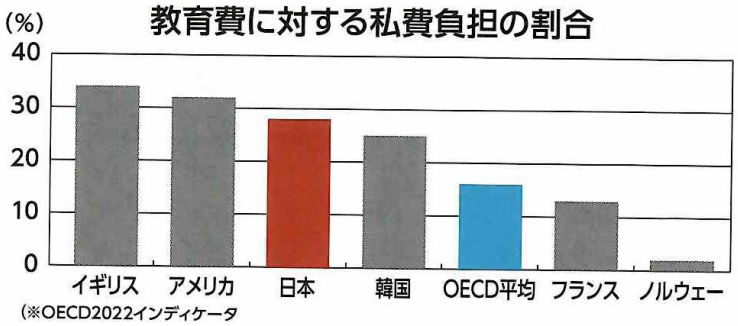
○お二人の報告には「なぜこの実践をやるのか」という思想性（世界観）が垣間見えてすてきです。

○教えつつ学ぶ、学びつつ教えるという「教育の弁証法」が具体化されているようで、今、教育にもっとも求められている姿勢がここにある！と思いました。

広島県のゆきとどいた教育をすすめる秋のつどい

教員の長時間勤務に歯止めをかけ、豊かな学校教育を実現させるために！

11月11日(土)、東区民文化センターにおいて「ゆきとどいた教育をすすめる全国教育署名」の秋のつどいが行われました。公立・私立の教職員だけではなく、保護者、高校生の参加もあり、全体で35名の参加でした。全体講師として広島大学名誉教授の木原成一朗さんをお招きし、「教員不足の要因と教員養成の現状」について語っていただきました。教員不足が全国的な課題として話題となっている今、どうしてこのような状況になったのか、これまでの教育行政のあり方を振り返りながら、今の教員不足に至った経緯を説明してくれました。さらに、今の大学は「選択と集中」がすすめられ、教員養成のあり方の問題も語ってくれました。



参加者からは、教員免許を取得できる大学が以前に比べて増えているのに、教員が少ないという現状に疑問が出されました。木原さんは「教員免許の取得者は増えている。やはり、教職が避けられている証拠だと思う。」と今の先生の働き方自体を変えない限り、この問題は解決が難しいと応えました。

その後、高校生、保護者、教職員のそれぞれの立場から報告があり、とにかくこの現状を打開するためには声をあげていき、そのために署名活動に取り組んでいこう！と行動提起もされました。

「教員のブラックという状況は日本の構造の最たるものです。教員の現場が良くならないと、世の中は良くならないと思います。みんなで声を出していき続けることが大切です」との声が出されました。

海田支部・職場訪問で総合共済拡大…

総合共済チラシを机上配布

この間、海田支部で総合共済チラシ配布の職場訪問が活発に行われました。海田支部の執行委員は、以前勤務していた学校へ行き、校長の許可をもらってコーヒーキャンディとともにチラシを机上に配布しました。

また、書記の岡田さんは、共済担当の西田さんとともに黒瀬の学校を訪問。どの職場も総合共済の説明をすると、「分かりました。配布しましょう」と快く受け取ってくれ、中には「とてもお得じゃないですか。どうしてこのようなことができるのですか?」と。「もうけを追求しない、たすけあいの共済なので、できるんです」とうれしい反応が寄せられています。

キットなんとかなる 気軽によびかけ加入

海田支部・支部長の武本先生は、賃金団体署名を職場訪問して集めるときに総合共済のチラシ配布も一緒にお願いして回りました。同僚の先生に子どもさんが産まれることを聞き、さっそくお誘いし、加入してもらいました。また、元同僚の先生にも声かけをし、加入です。キットカットを贈呈しましたが、このキットカットには「キット笑う門には福来る」や「キットなんとかなる」とか「ひとこと」が書かれているのがとてもいいと、職場のみなさんに配布されたそうです。

ゆきとどいた教育すすめる　街頭署名

県内各地で街頭署名行動…せんせいがんばって！

「孫のクラス　もたいへんです」

JR天神川駅での街頭署名からスタートしました。参加者は４人でしたが、わずか30分の間に積極的に署名集約に取り組み一人で7筆も集める方もおり、全体では14筆も集まりました。話しを立ち止まって聞いてくれるからも多く、参加者からは「元気をもらった」と喜びの声がありました。また、終了間際には、職場の同僚が「間に合いましたね」と息を切らしながら、小さいお子さんを抱っこして署名しに来てくれました。それぞれの方の職場での取り組みを感じました。

【ＪＲ天神川駅での街頭署名】

夕方からは、ＪＲ広島駅の北口で行いました。私学の「高校授業料無償化」を呼びかけるグループも一緒に高校生も交えて行いました。市教組からは８名が参加。全体で37筆の署名が集まりました。参加者からは、「もっと今の学校の現状を知ってもらう必要がある」と感想を話してくれました。行動への参加者からは次のような声が寄せられました。

○ある女性が「ずっとそう思っていました！子どもがかわいそう。先生たち大変なんでしょう？私、教員免許持っているけど、どうしたらいいか分からなくて…」と署名をしてくれました。

○学校の状況が悪くなっていることが周知されるにしたがって、わかってくれる方は増えているように思います。働き方改革、教育条件要求、まだまだこれからです。

【ＪＲ広島駅の北口での署名行動】

福山でも街頭署名

福山支部は11日（土）、JR福山駅前でゆきとどいた教育をもとめる街頭署名活動を行いました。北川書記長がマイクを握り、遅々として進まない県独自の少人数学、給食の無償化、学費の軽減、給付型奨学金制度など、貧困な教育の現状を訴えました。「福祉関係にいますが、教育や福祉にもっとお金を使うべきだと思います」と言って署名に応じる人や、足を止めて訴えに聞き入る人などの反応がありました。例年よりも人出が少なく筆数も伸びませんでしたが、あらためて地道に運動を進めていくことが大切だと思っています。

県議会への署名提出は１２月１３日です。**１２月８日までに**署名を届けてください。